4 路外駐車場の換気基準に関する検討委員会

4.1 委員会概要

本検討内容については、以下の構成による委員会を3回開催し、路外駐車場の換気基準に関する検討を行った。

【座長】

水野 明哲 工学院大学 名誉教授

【有識者】

委員 鍵 直樹 東京工業大学 大学院情報理工学研究科 准教授

委員 草鹿 仁 早稲田大学 理工学術院創造理工学部 教授

委員 近藤 靖史 東京都市大学 工学部建築学科 教授

【地方公共団体】

委員 加藤 達也 川崎市 まちづくり局交通政策室 地域交通対策担当課長

【事務局】

国土交通省 都市局 街路交通施設課

4.2 各回委員会概要

各委員会の概要は以下の通り。

※ 委員会資料は参考資料参照

4.2.1 第1回委員会

日時：平成27年7月27日（月）

議事：議題1 路外駐車場の換気基準に係る経緯・現状について

議題2 検討の進め方について

議題3 指標物質及び基準濃度の設定について

〔委員からの主なご意見〕

- ・ 現行基準制定時の理論（特に自然換気の各種係数）についても検討が必要である。
- ・ 自動車から排出される物質の状態は必ずしも気体ではないため、「指標気体」ではなく「指標物質」とするべきである。また、「許容濃度」という表現は普遍的、医学的な意味合いが強くなるため、駐車場を対象とするなら、「基準濃度」という表現が適切である。
- ・ 指標物質の選定にあたっては、排出ガスにCO、NO_x、SO_x等の物質がどの程度含まれており、一定時間における排出量に対し何m³の空気量で希釈すれば基準濃度以下になるのかを比較し、その上で一番危険側にある物質がCOであるという論理的な説明が必要である。
- ・ 基準濃度を瞬時値で考えるのか平均値で考えるのか、医学的な立場からの検討も必要である。
- ・ PMは、人体への影響とは別に前方視認性への影響があるが、駐車場の場合それほど問題にならないと考えられる。

- ・CO濃度センサーの設置や用途別等の運用方法によって基準を規定する方法もあるが、路外駐車場の設置の届出（駐車場法第12条）において、一度届出を受理した後、個々の駐車場の運用状況を継続的に確認していくことは、自治体事務として現実的に困難である。

4.2.2 第2回委員会

日時：平成27年10月8日（木）
議事：議題1 必要な換気量の算定について
議題2 原単位の設定について

〔委員からの主なご意見〕

1. 必要な換気量の算定について

- ・必要な換気量について、事務局案を了承する。
- ・換気装置の運用にあたっての一酸化炭素の設定濃度については、情報提供の検討が必要。

2. 原単位の設定について

- ・機械換気における原単位について、事務局案を了承する。
- ・自然換気については、駐車場における実地調査等を実施したうえで、検討することとする。
- ・機械換気と自然換気の併用については、解析が難しく基準化は困難である。

4.2.3 第3回委員会

日時：平成27年12月8日（火）
議事：議題1 自然換気に関する基準の検討
議題2 路外駐車場の換気基準に関する見直しの方向性

〔委員からの主なご意見〕

1. 自然換気に関する基準の検討

- ・自然換気は気温や風速等によって換気効果が大きく左右されるほか、仮に基準を緩和した場合には、開口部の配置等によっては、十分な換気がなされないケースも考えられることから、自然換気に関する基準の緩和については慎重に行うべきである。

2. 路外駐車場の換気基準に関する見直しの方向性

- ・事務局案を了承する。
- ・換気装置の運用については、今後、通知等により25ppm以下を保つことを推奨すべきである。

【今後の予定】

本検討委員会の結論を踏まえ、今後、駐車場法施行令の改正に向けた手続きを進める。